

大型犬の鼻腔腫瘍に対するオルソボルテージ放射線治療に 経鼻腔焼灼処理を加え奏功した2症例

福井 翔¹⁾ 田村 純¹⁾ 小松崇弘²⁾ 渡部あい²⁾
平山和子³⁾ 谷山弘行^{2,3)} 廉澤 剛^{1,2,3)†}

- 1) 酪農学園大学附属動物病院 (〒068-8501 江別市文京台緑町582)
- 2) 酪農学園大学大学院獣医学研究科 (〒068-8501 江別市文京台緑町582)
- 3) 酪農学園大学獣医学部 (〒068-8501 江別市文京台緑町582)

(2009年1月19日受付・2009年5月29日受理)

要 約

大型犬の鼻腔腫瘍に対してオルソボルテージによる放射線療法に加え鼻腔内焼灼などの補助療法を併用した。1症例は放射線療法に経鼻孔超音波吸引と経鼻孔焼灼を行うことで完全奏功に導くことができ、もう1症例は放射線療法と経鼻孔焼灼後に鼻腔背側に限局した病巣を根治的に外科的切除することで完全奏功に導くことができた。ともに1年以上経過したが、再発は認められず生存中である。——キーワード：焼灼，大型犬，放射線療法。

----- 日獣会誌 62, 890～893 (2009)

† 連絡責任者：廉澤 剛 (酪農学園大学大学院獣医学研究科獣医臨床腫瘍学研究室)

〒068-8501 江別市文京台緑町582 ☎・FAX 011-388-4889 E-mail : kado@rakuno.ac.jp